

(11)「目に見えるもの」に対する信念のあやふやさについては、M・メルロロポテンティ「見えるもの  
見えないもの」(滝浦静雄・木田元訳、みすず書房、一九八九年)にも考察がある。

(12)「聖クルアーン」の第一章であり、礼拝の際に必ず読誦される「開端章」における主題の一つは、  
来世の天国へ通じる「信仰のまっすぐな道」(スイラートウン・ムスタクウィーム)へ導いてくれ  
るよう、慈愛あまねき慈悲深く、最後の日の主宰者であり、すべての存在の主であるアッラーに対  
して願うことにある。

第二章 敬愛なる日本の皆様への手紙







